



日本医師会ニュース「平成 28 年熊本地震」：情報提供第二報

都道府県医師会 御中
郡市区医師会 御中

平成 28 年 4 月 17 日 17 : 30
日本医師会災害対策本部

日本医師会のホームページに毎号掲載しています！！

http://www.med.or.jp/people/info/people_info/004364.html

【この情報提供については、テレビなどの報道となるべく重複しないもので、かつ災害に関する医療や医師会活動、医療活動などに関するものに限定しています】

- 日本医師会災害医療チーム（JMAT）の派遣元を、熊本県医師会 1 県から、全国に拡大いたしました。なお、九州医師会連合会の協定を基本とし、九州各県医師会のチームを優先します。九州医師会連合の幹事県は長崎県医師会となっており、長崎県医師会が熊本県医師会と連絡を取り合っており、支援の調整を行っています。また、熊本県医師会の災害医療コーディネート機能に従っての派遣となります。
- 熊本県医師会の JMAT9 チーム計 31 名はすでに活動中、3 チーム準備中。また、鹿児島県医師会の JMAT3 チーム計 12 名が、熊本県医師会からの依頼を受けて、熊本県宇土市に向けて出動し、到着しつつあります。宇土市内の避難所で医療支援を行う予定です。
- 日本医師会が中心となって継続している被災者健康支援連絡協議会に参加している団体の 1 つである JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）は、JMAT の枠組みで熊本県宇土市、宇城市の避難所に入り、高齢者の健康管理などをリハビリテーションの観点から見回る予定です。
- 現在、熊本県、大分県の避難者の数は、17 万人を超えています。熊本県や大分県の被災県単独や、九州各県の支援でも十分な健康管理が継続的にできるものではありません。九州以外の各県への出動依頼を提案することについて協議しています。
- 交通の障害が大規模に発生しているため、現地の詳細な情報なしには被災地に到達できません。被害が大きい益城町、御船町で南北に分断されている状況です。従って福岡側から現地に入る方法と鹿児島側から北上する方法で被災地に入ることになります。
- JMAT に参加される会員で、すでに「医師資格証」を持っている会員は、必ず首にかけて JMAT 活動をするようにして下さい。また、なるべく早期に、現地に JMAT カード（下記に詳細説明）を用意するよう手配しますので、必ず携帯して必要があれば被災された該当者に手渡して下さい。

小郡三井医師会より

救急災害医療担当理事 吉武靖博
会長 廣瀬真恵

- 発災直後より現地に入っている、日本医師会救急災害委員会委員兼日医総研客員研究員から、以下のような報告がありました。

「治療困難となった入院患者の移動などは熊本県内外の病院の協力で行われています。また、重症患者や避難所では、様態が悪化する可能性のある患者の搬送も行いました。避難所ではばらつきはありますが、徐々に医療支援や見回りが始まっています。来週から本格的な動きが出てくるということです。400回を超える余震が続いているため、電気・水道などのインフラの復旧が決定的に遅れています。住宅の復旧もできないため、避難所生活は長期化する見通しです。」

- JMAT カードは、災害時に避難所などで医療支援に入った場合、簡易カルテが用意されていれば、カルテ記載で次の JMAT チームに情報連携を行います。カルテがない場合、または大雑把な避難所の見回りや健康支援の際に気になる被災者に手渡し、次の JMAT に情報連携をするためのものです。赤のカード(要治療)、黄色カード(要注意)、白色のカード(要観察)の3種類があります(下記に例示する画像は、東日本大震災の際に使用したもので、今回用意するものとは表記が若干異なります)。

JMAT トリアージカード(要治療)			
名前			受診歴
理由			
自由記入			
診療日	月	日	避難場所

(要治療：赤)

JMAT トリアージカード(要注意)			
名前			受診歴
理由			
自由記入			
診療日	月	日	避難場所

(要注意：黄)

JMAT トリアージカード(要観察)			
名前			受診歴
理由			
自由記入			
診療日	月	日	避難場所

(要観察：白)

日本医師会災害対策本部(代表番号：03-3946-2121、FAX：03-3946-6295)